

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成29年12月22日

2学期終業式を終えて

東陽中学校長 小野寺 憲 治

本日、2学期の終業式を迎えることができました。授業日数にして85日、土日の部活動への参加も含めると124日間の歩みでした。今学期も子どもたちは、一人一人が持っている可能性を学校生活の至る所で開花させました。1年生の「2学期を振り返って」の感想からは、初めての取組である学校祭の印象が強く残っており、一生懸命自分の役割を果たそうと取り組んだこととともに、「2、3年生のステージ発表」に感動し、来年のステージ発表へ思いを馳せているものがたくさんあり、次年度の学校祭のステージ発表が今から楽しみです。

先日、日本漢字能力検定協会が主催する今年の漢字が発表され、今年の世相を表す漢字は「北」に決まりました。本校の2、3年生が同様の取組を行い、一人一人が考えた漢字が廊下に掲示されています。「北」と予想した生徒が36名とかなり多く、いろいろな出来事やニュースを注視していることが分かりました。隣国からのミサイル発射にJアラートが政府から発信され、より大きな不安を抱きました。隣国の核兵器開発の脅威は、日本国民のみならず世界の国々の人にも怒りと不安をもたらしました。また、九州北部を襲った豪雨の被害も話題となりました。良いニュースとしては、北海道日本ハムファイターズに清宮幸太郎選手の入団が決まり、北海道日高町で誕生した競走馬のキタ(北)サンブラックが大活躍しました。

私が振り返る明るい話題は、女子スピードスケート選手の大活躍です。北海道出身選手の目覚ましい活躍は、来年の平昌五輪での大活躍が期待できるものです。また、将棋界に彗星の如く現れた中学3年生の藤井聡太四段が公式戦29連勝を遂げました。さらに、前人未踏の大偉業を達成した羽生善治棋聖は、史上初の「永世七冠」に輝きました。

さて、3年生は教育相談、三者懇談を経て志望校を決定しました。第一志望校の突破に向けた受験勉強が本番を迎えています。推薦面接試験がある生徒は、放課後に面接練習を行っています。推薦面接試験で最も大切なことは「なぜその学校を選んだのか」という志望動機に必然性があることです。その学校でなければならない理由とそこで何を学びどんな進路へ進むのかを明確に答えられるようにしておくことが大切です。一般受験者は突破に向けて学習あるのみです。自分に甘えることなく自己実現の一步を自身の力で切り拓く力強さを見せてください。そのためには年末年始の過ごし方が合否に大きく影響するので、その取組を大切にしてほしいと願っています。保護者の皆様には、温かく見守っていただき励ましをお願いします。

結びになりますが、保護者、地域の皆様には日ごろから学校に対しまして温かいご支援とご協力をいただいておりますことに心からお礼と感謝を申し上げます。新年の戌年が皆様にとりまして良い年となりますことを祈念致します。

